

【高等学校用】
令和8年度学校評価 計画

学校名	佐賀県立鹿島高等学校
-----	-------------------

<p>1 前年度 評価結果の概要 （概観）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・【学力の向上】については、継続的に授業改善を図り、個に応じた学習指導、進路指導を行い、学力向上の充実を図っていききたい。 ・【心の教育】については、教育課程内外の諸活動の機会が効果的に活用され、指標を達成している。今後も内容や方法の改善を図り、よりよい教育活動を提供したい。「いじめへの対応」については指標を上回っており、引き続き、生徒に寄り添いながら組織的かつ迅速な対応を行っていかねばならない。 ・【健康・体づくり】については、自転車通学生のヘルメット着用率の向上を図るために、今後ヘルメット購入の推奨や意識高揚のためのチラシ配布など具体的な策を実施する。また、食習慣や生活習慣の向上についても、保健だより等を活用し指標の達成を目指す。 ・【特別支援教育の充実】については、計画通りに情報共有や研修会を行うことができた。今後も、個に応じた配慮や支援の充実のために研修会や情報共有の内容を充実させていく。 ・【教職員の働き方改革の推進】については、前年踏襲ではなく業務内容の見直しや仕組みの改善、また休暇をとりやすい風土づくりに努めていきたい。 ・【SAGA唯一無二の誇り高き学校づくり】については、コミュニティー・スクールをうまく活用し、学校、地域、家庭での連携を強めながら学校の魅力化、志願者増につながる取組を進めていきたい。
--------------------------------------	--

<p>2 SAGAスクール・ミッション 学校教育目標</p>	<p>○ スクール・ミッション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旧制鹿島中学校以来の伝統と新しい取組を融合させ、探求（探究）活動や普通科改革を推進するとともに、地域の力の積極的な活用を通して地域の期待に応え続ける学校をめざす。 ・3つの学科（普通科、商業科、食品調理科）の相互作用を通して、社会を支え未来を切り拓く有為な人材を育成する。 <p>○ 学校教育目標</p> <p>他者を尊重し、誠実で豊かな心と大きな志をもって逞しく未来を切り拓く力を育てる。</p>
------------------------------------	---

	アドミッション・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	グラデュエーション・ポリシー
<p>3 スクール・ポリシー</p>	<p>①夢や目標をもち、その実現に向けて挑戦しようとする生徒。 ②自分や社会の未来をより良くするために、自ら進んで学ぼうとする生徒。 ③仲間を思いやり、何事にも真面目に取り組もうとする生徒。</p>	<p>〔普通科〕</p> <p>①大学進学を目指し、確かな学力を身につけさせる。 ②1年次は共通の学びで教科・科目の基礎を固める。 ③2年次からは各コースで特色のある学びを始める。 <文理探求進学コース（文系・理系）> ④英語・数学に重点を置いて、大学進学のための学力や幅広い教養を身につけさせる。 <未来探求進学コース（文系）> ⑤学校設定教科で、大学入試だけでなく大学での研究や企業等においても求められる力（MIRAIの力*）を身につけさせる。 *MIRAIの力=「M」見つける力 「I」イメージする力 「R」理解する力 「A」表す力 「I」活かす力</p> <p>〔商業科〕</p> <p>①共通の学びで知識・教養を身につけさせる。 ②専門科目でプロとしての力を磨く。 ③就職、進学に向けて、丁寧に学びを積み重ねる。 ④商業やビジネスに関わる専門知識や技術を習得し、様々な資格を取得させる。 ⑤課題研究や総合実践で、社会に役立つ実践的スキルを身につけさせる。</p> <p>〔食品調理科〕</p> <p>①共通の学びで知識・教養を身につけさせる。 ②専門科目でプロとしての力を磨く。 ③就職、進学に向けて、丁寧に学びを積み重ねる。 ④プロの調理師から和洋中の調理技術と知識を身につけさせる。 ⑤課題研究や専門教科の授業で学びを深め、調理師免許を取得させる。</p>	<p>①【大志】高い志を抱き、夢や目標の実現を通して社会に貢献する生徒を育てる。 ②【探求】自分や社会の未来を問い続け、答えを求めて学び続ける生徒を育てる。 ③【至誠】誠実に物事に取り組み、真心で人と接する生徒を育てる。</p>

<p>4 本年度の重点目標</p>	<p>学校スローガン： 「大志・探求・至誠」を胸に、未来を切り拓く</p> <p>（1）授業改善と指導力向上を図り、確かな学力と専門的な知識・技術を育成する。 （2）教育活動全般を通して、豊かな心と健やかな体を育み、人間的な成長を促す。 （3）進路指導の充実を図り、生徒の進路実現を支援する。 （4）コミュニティー・スクールや普通科改革（コース制導入）の実践により、地域と連携した特色ある学校づくりを推進する。 （5）業務改善・意識改革により、働き方改革を推進する。 （6）組織力を高め、教育目標の達成や課題解決に一丸となって取り組む体制を整える。</p>
-------------------	--

5 重点取組内容・成果指標			
(1)共通評価項目			
評価項目	取組内容	重点取組 成果指標 (数値目標)	具体的取組
●学力の向上	○授業改善と指導力向上	○授業の進度や内容が適切であると思う生徒を85%以上、授業をとおして学力が向上したと思う生徒を85%以上、主体的に学ぶことができていると思う生徒を90%以上に する。 ○現行学習指導要領に則って、指導計画や指導方法の改善を推進し、よりよい評価方法の検討を継続する。 ○ICTを活用した学習支援を実施する。	・各教科1名以上の公開授業を実施し、事後に授業研究会等を行う。 ・各教科担当者が、生徒の学習状況を把握し、継続的に授業改善を行う。 ・教科会議、教務委員会を定期的に行い、教育課程や指導・評価方法、学校設定教科等の研究を進める。 ・欠席等の生徒がいる場合には、オンライン授業を実施し、自宅学習の支援を行う。
	◎自己の能力を高め、社会に貢献しようとする大きな志を持つ生徒の育成 ○進路指導の充実と生徒の進路保障	○進路実現を通して自らが社会に貢献したいと考える生徒を90%以上、3年生の進路指導に対する満足度を90%以上に する。 ○全国模試受験者の平均偏差値50以上の科目数を昨年度以上に する。(普通科) ○国公立大学合格者数を高3生全体の40%以上に する。(普通科) ○4年制大学における学校推薦型選抜・総合型選抜入試の合格者数を昨年度以上に する。(普通科) ○就職希望者の就職率を100%に、県内就職率を75%以上に する。(商業科、食品調理科)	・進路講演会を各学年1回(3年生6月、2年生2月、1年生12月)、進路ガイダンスを3回(6月、7月、3月)実施する。 ・進路講演会等でこれからの未来社会と社会貢献の視点から、各自の進路希望を考える機会を設定する。 ・進路検討会を3年生4回(4月、6月、11月、1月)、1・2年生2回(5月、12月)実施して生徒の志望状況や課題を共有し、面談を通して適切な助言・支援を行うとともに、各学年における各教科間の指導内容や重点目標等を共有し、授業の質の向上に努める。
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○他者の考えを知り、社会性や倫理観を身につけさせるため、探究学習におけるフィールドワークの参加率を100%にする。 ○誠実で豊かな心を身に付け、「人間的に成長した」と思う生徒を95%以上、「地域や社会に貢献しようという志がある」と思う生徒を85%以上に する。	・フィールドワークの意義を事前に考えさせ、目的を明確にさせて参加させる。都合により参加できなかった生徒は情報を共有させる。 ・生徒へのホームルーム活動、講演会を通じて人権・同和教育を実施する。また、職員に対しても研修を行う。
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめについて相談しやすい雰囲気があると思う生徒85%以上に する。 ○いじめに対する組織的対応ができていると思う教員90%以上に する。	・いじめアンケートを3回(6月、11月、2月)実施する。 ・いじめ認知・認知の対応マニュアルの見直しを行う。 ・いじめの対応についての職員研修を2回以上行う。 ・情報モラルに関する指導を行う。
●健康・体づくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●「健康に良い食事をしている」生徒90%以上に する。	・望ましい食習慣や食の自己管理に関する情報を保健だより等で3回以上提供する。 ・食習慣に関するアンケートを2回実施し、結果をもとに必要な指導を実施する。
	●「安全に関する資質・能力の育成」	●生徒の交通事故を0(ゼロ)にする。 ○交通安全に気をつけて登下校している生徒を95%以上に する。	・高校生が関わる交通事故について情報を提供し、注意喚起を行う。 ・警察署と連携し、街頭指導を年に2回以上行う。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減 ○適切な休養日の取得と「ワークライフバランス」の推進	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上を目指す。	・管理職は、職員が自ら設定した時間外在校等時間の目標を超えないよう声掛けや働きかけを行う。併せて、職員が時間外在校等時間の上限を超える見込みがある場合は、超過する前に個別の声掛けや面談を行うことで、上限を超えないよう働きかける。 ・管理職は、年次休暇取得状況を毎月集約し、衛生委員会等を利用して取得状況を報告するとともに、積極的な取得を呼びかける。
●特別支援教育の充実	○特別支援教育に関する教員の専門性と意識の向上	○特別支援教育に関する専門性が向上したと回答する教員を85%以上に する。	・職員研修を年1回実施する。 ・特別支援教育委員会を年2回実施し、関係者間での情報共有を行う。
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目			
重点取組			具体的取組
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	
★唯一無二の誇り高き学校づくり	○地域との連携強化 ○普通科改革の推進 ○広報活動の充実	★「自分の学校を中学生に勧めることができる」と回答する生徒の割合を80%以上、職員 の割合を95%以上に する。 ★県外からの入学者数3人以上にする。 ○高校魅力化評価アンケートの「学校で学習することで、自分ができることや、したい ことが増えている。」と回答する生徒の割合を85%以上に する。 ○高校魅力化評価アンケートの「地域をよりよくするために、地域における問題に関 わりたい」と回答する生徒の割合を70%以上に する。 ○学校ホームページの更新を週1回以上行う。	・学校運営協議会を年3回開催する。地域と学校の連携・協働を推進するとともに、学校運営協議会に生徒が参加する場面を設けることで、地域や生徒のアイデアや意見を学校づくりに生かす。 ・旭ヶ岡キャリア塾やキャリアラボの取組を充実させ、より生徒のニーズに合ったキャリア教育支援を提供する。 ・高校生サポーターや高校生ティーチャーの活動を通して、地域連携、地域貢献を図る。 ・普通科改革推進委員会を設置し、各部署が連携して全職員の共通認識を図りながら、志願者増に向けた取組を進める。 ・普通科未来探求進学コースの担当者会議を随時開催し、授業内容や今後の指導計画について協議・共有を図る。 ・学校ホームページや学校だよりを有効活用し、地域の小・中学生、保護者が欲しい情報を発信し、学校の様子や取組に対する理解を深める。 ・学校パンフレット、学校説明会、体験入学、ハイスクール・ウェビナーの内容を充実させる。

●…県共通 ○…学校独自 ●…志と誇りを高める教育 ★…唯一無二の誇り高き学校づくり